

平成 24 年度地域づくり課題研究支援事業 実施報告

1. 概要

まちづくりを担っていく人材の発掘と、住民がまちづくりに積極的に参画できる環境整備の第一歩として、中間支援組織の専門家から市民活動についてノウハウを学ぶ講座を実施した。

(1) テーマ 「今、私（私達）にできる市民活動」

(2) 講師（全 5 回） 大久保 朝江 氏
（みやぎ NPO プラザ館長、NPO 法人杜の伝言板ゆるる代表理事）

(3) 募集・応募状況

- ・お知らせ版 10/1 号及び 10/15 号、町ホームページにより募集した。また、生涯学習課地域デビュー事業「20 歳×3」の過去の受講生及び男女共同参画講座受講生へ案内の送付、町職員への声掛けを行った。
- ・応募者は 16 名（男 9 女 7）で、講座内容、会場規模を踏まえれば、適当な数であった。

(4) 実施日等

回	実施日時	内容	参加者 (申込者 16 人)
1	11 月 13 日（火） 19 時～21 時	講話「市民活動の役割」	14 人
2	11 月 29 日（木） 19 時～21 時	個人ワーク「社会が求めていること・ 自分ができること」	15 人
3	12 月 13 日（木） 19 時～21 時	グループワーク「活動を企画しよう①」	14 人
4	1 月 22 日（火） 19 時～21 時	グループワーク「活動を企画しよう②」	14 人
5	2 月 7 日（木） 19 時～21 時 10 分	企画発表会	13 人
場所：まちづくり推進センター 参加者数：延べ 70 人（出席率 87.5%）			

2. 実施内容結果（受講者アンケートを踏まえて）

(1) テーマ設定

- ・「まちづくりを担っていく人材の発掘」と「まちづくりに積極的に参画するきっかけづくり」という講座の目的から、「今、私（私達）にできる市民活動」とした。

- ・自分自身がまちづくりにどのように関わっていけるのかというテーマは、受講生にも好評であった。

(3) 講座内容

- ・受講生自身が興味のある市民活動について、企画立案していく内容とした。
- ・講話⇒個人ワーク⇒グループワークという流れで講座を行い、講話・個人ワークで個人の知識を身に付け、グループワークで模擬的に企画立案作業を行う内容は、受講生にも好評であった。

(4) 開催日・時間

- ・平日の夜間（19時～21時）に開催した。
- ・受講生は、お勤めの方が多く、平日の夜間開催は好評であり、高い出席率につながった。

(5) 受講生の理解度

- ・座学では講師が具体的な事例を用いて市民活動の意義、種類、進め方などを紹介した。グループワークでは企画書様式を用い、分かりやすい手順で企画作業を進められるようにした。
- ・適宜、講師が机間指導し、受講生の理解度も高かった。

(6) 講座の継続

- ・受講生の多くが、次回もこのような講座に「参加したい・どちらかといえば参加したい」、このような講座を継続的に「実施すべきと思う・どちらかといえば実施すべきと思う」とアンケートで回答しており、講座の継続を希望している。
- ・講座内容の希望としては、ボランティアの心得、社会参加の促し方、ファシリテーション講座、など。

(7) 受講生の感想など

- ・受講生からは、本講座での出会いに感謝する感想があり、市民活動の実践へ向けた仲間作りの機会となった。
- ・年1回の講座ではなく、複数回開催することで、町民のまちづくり意識の啓発につながるのでは、という意見が出された。

3. 企画案の概要及び講評（企画案は別添）

講座では、受講生が6グループに分かれ、市民活動の企画立案作業を行った。その概要と講師からの講評は次のとおり。

(1) 「(商店街活性化) S T G 総選挙事業」

(概要)

商店街の活性化へ向け、地域住民や観光客へ「人気投票」形式でアンケート調査を行い、その結果を取りまとめた「買い物マップ」を作成する。これ

により、商店街へのニーズ調査とPR効果を狙う。

【講評】

- ・立候補する店舗から出資金を貰うのであれば、出資しようとする動機づけの工夫がもっと必要。ある程度マップを作り、店舗が紹介されるだけでも出資するメリットがあるなど、店側の費用対効果を検討すること。
- ・様々な賞を考案し、より多くの参加店舗が受賞する工夫があると良い。単に順位を決める投票では、シコリが残ったり、ある程度厳格なルールが必要になり、趣旨と違った方向になる。

(2)「高齢者・障がい者支援クリニック 団栗の会」

(概要)

在宅高齢者の方をメインに、心身に障害を持った方の日常生活維持のため、買い物支援・室内片づけ・庭木の剪定等の生活サポートを行い、支援が必要な方の生活環境の改善、充実を図る。

【講評】

- ・社会福祉協議会やシルバー人材センターなど、既に似たようなサービスを提供しているところがある。それを、実費相当だけでサービスを提供するのであれば、必ずニーズがあると思う。一方で、パンクしないよう、どこまで手を伸ばすかなどは実際に活動を行ってみて、考えていく必要がある。

(3)「きれいなまちづくり推進事業 ～町内ごみ拾いツアー～」

(概要)

ごみ置き場の使用状況調査と町民への周知活動、月に1回ごみ拾いイベントを実施することにより、町に対する愛着を持ち、ごみに対する関心を持つ住民が一人でも多くなるよう、きっかけづくりをしていく。

【講評】

- ・イベントとくっつけてごみ拾いをやっちゃおう、という内容は良いと思う。
- ・市民活動の第1歩は仲間づくりなので、誰と一緒に活動を始めるのか、運営体制をどうするか、検討をしなければならない。

(4)「第1回オータム鍋パーティー」

(概要)

地域の若者が減少し、若者同士が交流する場も少なくなっている中、新たな出会いが生まれ、交流を深められる鍋パーティーを開催し、将来的に柴田町に残り、盛り上げてくれる人材の確保を目指す。

【講評】

- ・鍋を作って食べて終わりではなく、そこから目的である交流の促進につながるにはひと工夫必要。自然に交流が生まれることを期待してはいけない。
- ・事業費の多くが食材なので、中止の場合、事業費の負担だけが残ってしまう。施設利用ができる場所は無いか、その費用など、荒天の場合を想定したプ

ランも必要。

(5) 「世代間交流サロン『ヤシの実』」

(概要)

子育てに悩む親達に、子育てを終えた人達の経験を世代間交流を通して伝え、子育てのヒントにしてもらえるよう、また、熟年層の力を引き出し新たな活動の場をつくるため、「交流サロン」を開設する。

【講評】

- ・利用施設の使用料など、固定経費についてきちんと考える必要がある。必要経費は、参加料に組み込むなど、無理のない収支を考える必要がある。それが活動が長続きする秘訣でもある。

(6) 「ちょっと寄っていがい♡」

(概要)

近年、柴田町では散策コースの整備が進み、朝夕に散歩している方が多くみられる。その方達の休憩場（カフェ）を設け、地域の横の繋がり、情報交換等の場としていくとともに、定年退職後の経験豊かな方々の活動の場とする。場所は、午前中空いている居酒屋を活用する。

【講評】

- ・朝に散歩している高齢者の集える場所を作るという、着眼点が良い。200円でコーヒーを飲むのかどうかなど、価格設定などは実施しながら考えていく必要がある。
- ・協力してくれる店舗についてある程度目途があるということであれば、直ぐにでも実現可能な内容であるので、是非実現してもらいたい。

4. 講座の成果を踏まえて

- ・今回の講座で検討された企画案については、受講生以外でも取組むことができるものであり、また、企画案を参考に新たな活動に結び付くことが十分考えられる。そこで、講座の成果は個人情報伏せた上で、町ホームページに公開するとともに、推進センターで閲覧するなど、情報発信をしていく。
- ・今回は、模擬企画として立案作業を体験したが、講師からは実現可能な企画ばかりなので、是非実現してもらいたい、という講評があった。今回の講座をきっかけとした市民活動の実践へ向けて、推進センターで修了生を後押ししていく。